

AX-500

NATURAL SOUND STEREO AMPLIFIER

取扱説明書



ご使用前に必ずお読みください。

特長

このたびは、ヤマハ・プリメインアンプ AX-500 をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。AX-500 の優れた性能を充分に発揮させると共に、長年支障なくお使いいただくために、この取扱説明書をご使用前に、ぜひお読みくださいますようお願いいたします。

目次

特長	1
豊かなオーディオライフのために	2
接続のしかた	3
・レコードプレーヤーの接続	4
・CDプレーヤー、チューナー、その他AV機器の接続	4
・テープデッキの接続	4
・アクセサリ端子の使用	5
・スピーカーコードの接続	5
各部の名称とはたらき	6
操作のしかた（再生）	9
操作のしかた（録音）	10
・多機能な REC OUT セレクターについて	11
・テープのダビングについて	11
故障かな、と思ったら	12
参考仕様	13
ブロックダイアグラム	15
ヤマハホットラインサービスネットワーク	16

●高性能イコライザーアンプ

ローノイズトランジスター採用の簡易型リアルタイム・イコライザー回路で、高SN比・低歪率を実現。入力信号にハイスピードに対応し、かつ低出力のMCカートリッジもダイレクトに使用できます。

●CD DIRECT スイッチ

コンパクトディスクのハイクオリティデジタルサウンドを、より良い音で楽しんでいただくため、CDプレーヤーからパワーアンプ部へ、よりシンプルな回路で信号を伝送する高音質設計。

●新開発 ALA (Absolute Linear Amplification) 回路搭載

クロスオーバー歪、スイッチング歪を理論上発生させない新回路 ALA 搭載。パワー段の入力信号と出力信号をリアルタイムに監視(比較)し、両信号の関係がリニアになるように働きます。そのうえスピーカーシステムから発生する逆起電力の影響も内部的に吸収し、入力信号に忠実に低音域から高音域までダイナミックに再現します。

●低インピーダンススピーカー対応

スピーカーシステム駆動時の、ダイナミックな負荷変動に対し、充分駆動できるように、大型トランスと 12,000 μ F \times 2 の大容量電解コンデンサーを組合せ電源部を強化。また最終段には、大型サイズパワートランジスター採用の3段ダーリントン接続回路により、低インピーダンスドライブビリティが一段と向上し、ダイナミックパワー230 W/2 Ω の大出力を実現。

●豊富な付属機能

テープ1、テープ2の相互ダビング可能な REC OUT セレクター、不要な超低域のノイズを取り除くサブソニックフィルター、人間の耳の特性に合わせてワイドレンジ(0 ~ 40 dB < 1 kHz) にレベルコントロールのできるコンティニューアンスラウドネス、トーンコントロール回路の設定を変えずに、フラットな特性が得られるトーンバイパス、グラフィックイコライザ等の接続に便利なアクセサリ端子、さらにAV機器の音声出力などにも対応できる6系統入力と十分な機能を備えています。

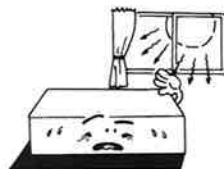
●合理的な内部レイアウト

音質の劣化を防ぐため、内部配線が極力短くなるように、MM/MC 切換スイッチや SPEAKER A・B 切換スイッチを、リアパネル側に配置するため延長ロッドを使用するなど、各部の回路を最短距離に配置した合理的なデザインレイアウト。

豊かなオーディオライフのために

高温・低温はさけて！

窓際や直射日光の当たる場所・暖房器具のそばなど極端に暑い場所(周囲温度40℃以上)・温度の特に低い場所(周囲温度-5℃以下)・湿度の多い場所(湿度90%以上)は、さけてください。



ほこり・水気をさけて！

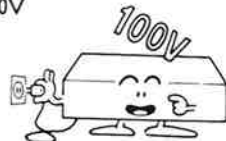


不安定な場所をさけて！



国内のみ使用可

家庭用電源コンセント
AC100V

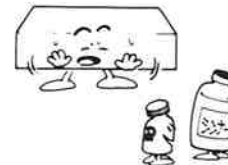


雷が近づいたら

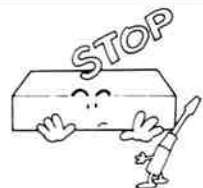


早めに電源プラグをコンセントから抜いてください。

薬物厳禁



開けないで！



引っぱらないで！



保証書の手続きを！

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店名、購入日などがありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。



セット上面の通風孔をふさがない

放熱を妨げないため、セット上面の通風孔の上に敷き物や、レコードなどを絶対に置かないでください。



磁気・テレビはさけて！



こわれた？



12ページの「故障かなと思ったら」をご覧ください。

取扱説明書はかならず保管してください。



ファイルなど

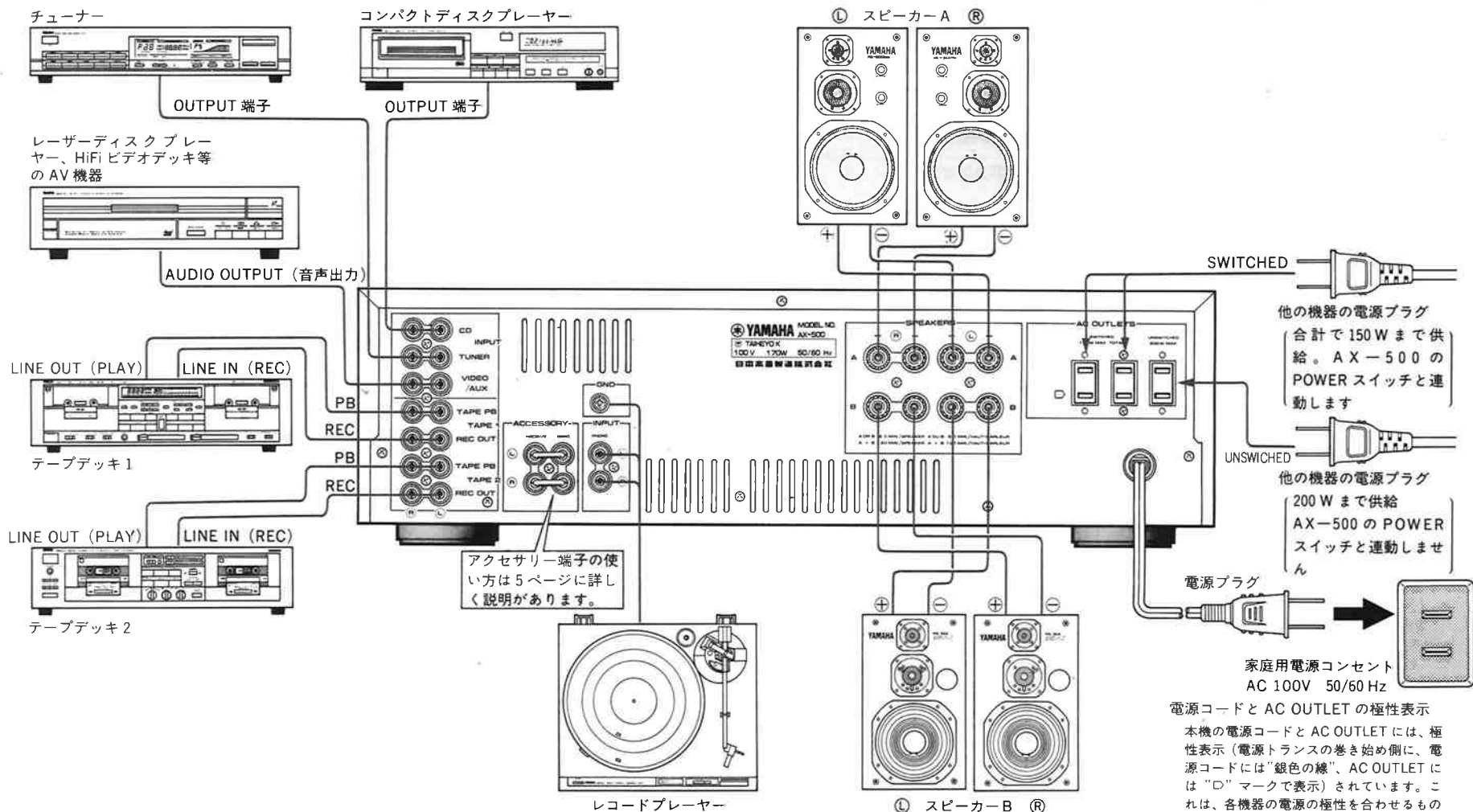
接続のしかた

※本機の使用中は、温度が上昇しますので、放熱しやすいようにセッティングしてください。

ラックに収納するときも、アンプ上部にゆとりを持たせてください。

※接続の際は、各機器の電源を切り、右チャンネル®・左チャンネルⓁを確認して正しく接続してください。

(間違いを防ぐため各コンポーネントとも、あらかじめピンコード(プラグ)の色を®・Ⓛ決めて、使用されることをおすすめします。)

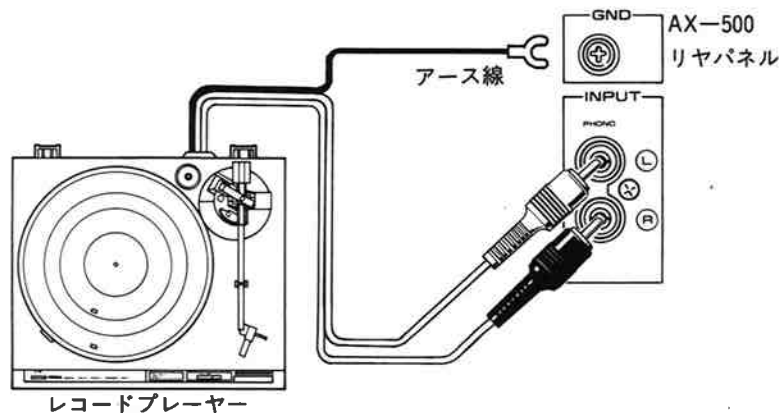


家庭用電源コンセント
AC 100V 50/60 Hz

電源コードと AC OUTLET の極性表示
本機の電源コードと AC OUTLET には、極性表示(電源トランスの巻き始め側に、電源コードには「銀色の線」、AC OUTLET には「D」マークで表示)されています。これは、各機器の電源の極性を合わせるものです。

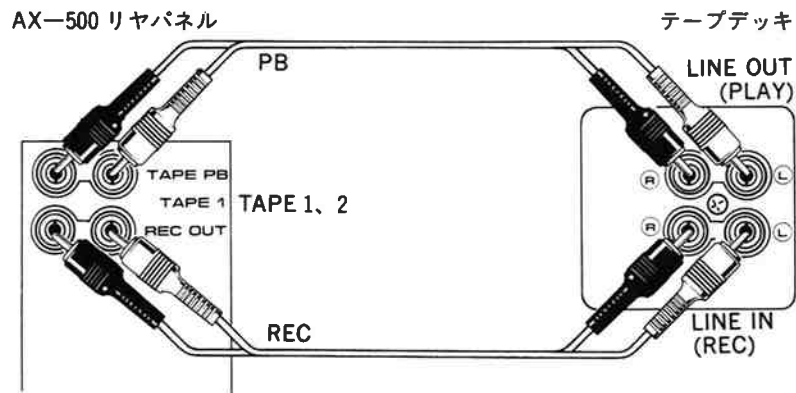
■レコードプレーヤーの接続

レコードプレーヤーの出力コードを PHONO 端子にしっかり差し込んでください。アース線は GND 端子に確実に接続してください。



■テープデッキの接続

本機では、TAPE 1、TAPE 2 端子にテープデッキが2台まで接続できます。



それぞれ確実に接続してください。

■CD プレーヤー、チューナー、その他 AV 機器の接続

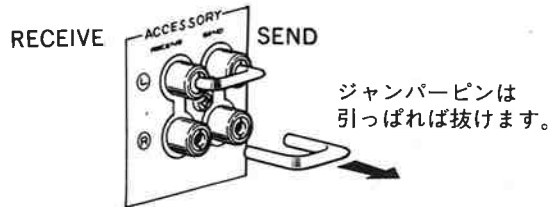
コンパクトディスクプレーヤー (CD) は CD 端子に、チューナーは TUNER 端子に、その他ビデオ機器の音声出力その他オーディオ機器は VIDEO/AUX 端子に、それぞれ確実に接続してください。

■ ACCESSORY 端子の使用

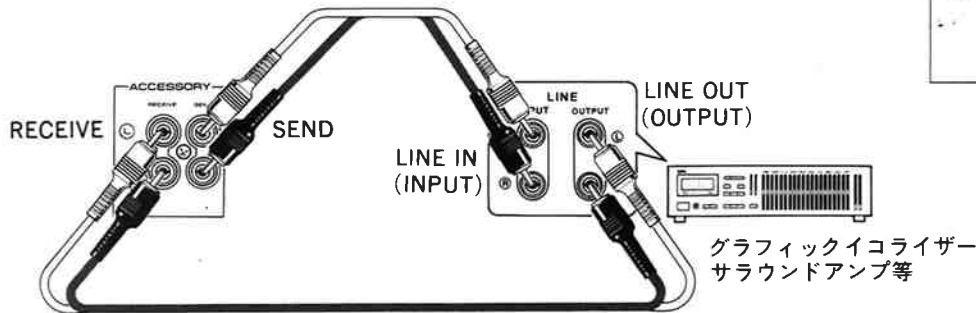
グラフィックイコライザー・サラウンドアンプ等を使用するときに接続する端子です。

通常アクセサリ端子を使用しないときは、ジャンパーピンを差し込んだままの状態でご使用ください。

グラフィックイコライザー・サラウンドアンプをアクセサリ端子を使用し接続する場合は、ジャンパーピンを抜き取り、下図のように、ピンコードで接続してください。



AX-500 のリヤパネル



■ スピーカーコードの接続

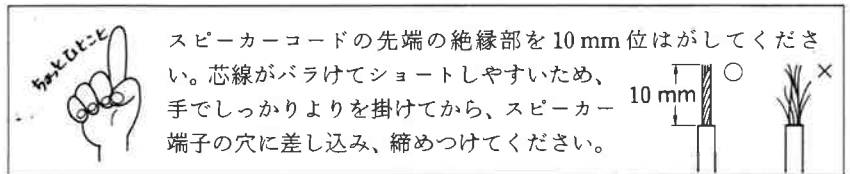
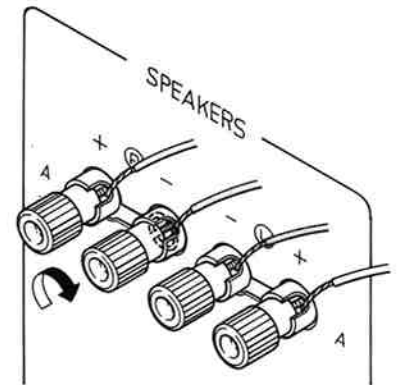
SPEKERS A の⑧側端子に右側スピーカーシステムを、①側端子に、左側スピーカーコードを接続してください。

アンプ側の+端子からスピーカーシステムの+端子へ、アンプ側の-端子からスピーカーシステムの-端子へ極性を間違いないよう、確認して接続してください。

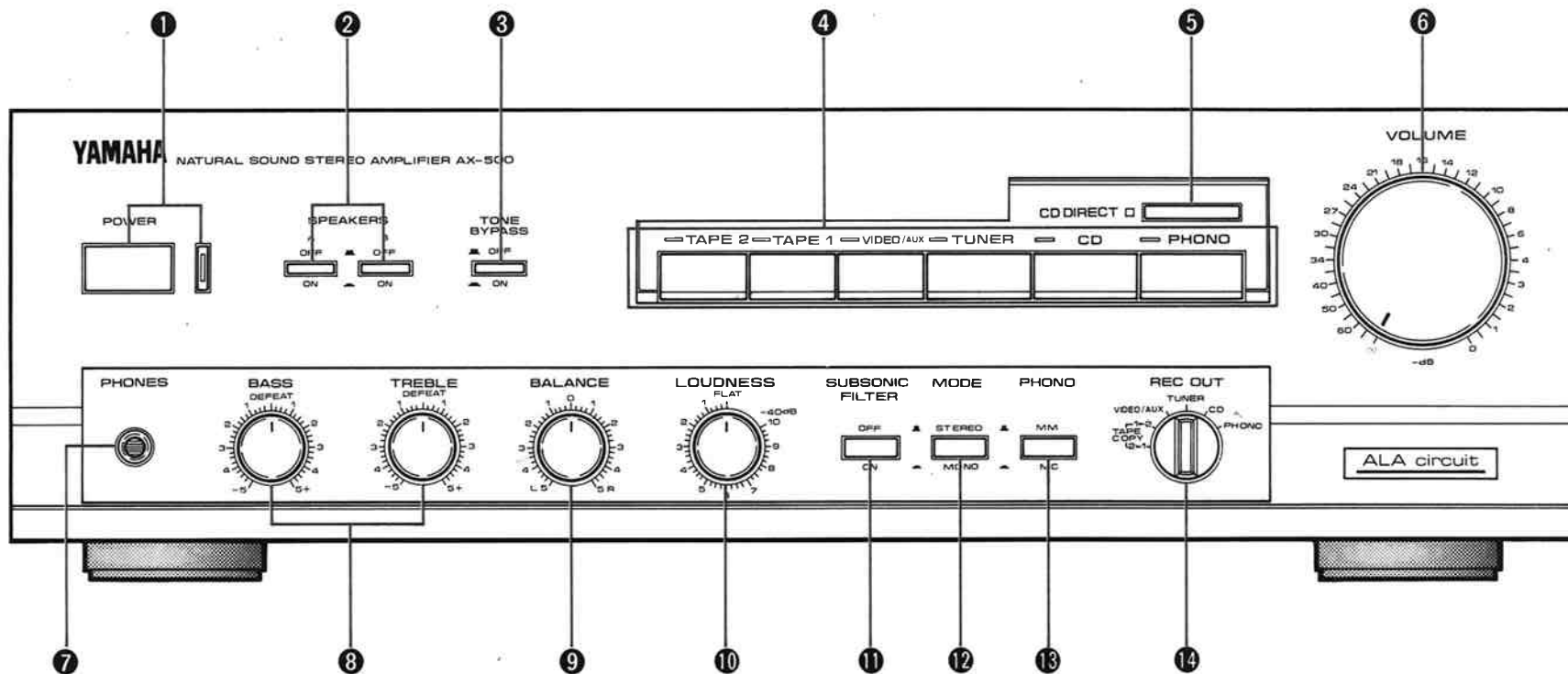
SPEKERS B も SPEKERS A と同様にもう一組のスピーカーシステムを接続することができます。

※極性を間違えた場合、音が中央に定位せず、ステレオ感のない低音のそこなわれた、不自然な再生音となることがあります。

A, B 単独使用の場合は、インピーダンス 6 ~ 16 Ω のものを、2 組同時使用の場合は、各インピーダンスが 12 Ω 以上のものを使用してください。



各部の名称とはたらき



① パワースイッチ (POWER)

このスイッチを押すと電源が入り、もう一度押すと電源が切れます。電源が入るとインジケータが点灯します。電源を入れるときは、ボリュームつまみを必ず最小の位置“∞”にしておいてください。電源を入れてから数秒間は、スピーカー保護回路が働き、音は出ません。

② スピーカースイッチ (SPEAKERS)

本機に接続されたスピーカーシステム (A・B) を選択するスイッチです。Aのボタンを押すとA端子に接続されたスピーカーシステムから、Bのボタンを押すとB端子に接続されたスピーカーシステムから音が出ます。A・B両方のボタンを押すとA・B両方のスピーカーシステムから音が出ます。

③ トーンバイパススイッチ (TONE BYPASS)

スイッチ ON (■) でトーンコントロール回路をパスし、トーンコントロールの各つまみの位置に関係なく FLAT な特性でソースを聴くためのスイッチです。

④ インプットセクター

再生したいソースを選択するスイッチです。押すと選択したソースのインジケータが点灯します。

PHONO	レコードプレーヤーを再生するとき。
CD	CDプレーヤーを再生するとき。
TUNER	チューナー (FM/AM) を再生するとき。
VIDEO/AUX	ビデオデッキ・ビデオディスクプレーヤーなどの音を再生するとき。
TAPE 1	TAPE 1 端子に接続したテープデッキを再生するとき。
TAPE 2	TAPE 2 端子に接続したテープデッキを再生するとき。

⑤ CD ダイレクトスイッチ (CD DIRECT)

このスイッチを押すと、左のインジケータが点灯し、インプットセクターに関係なく CD が優先されます。

また信号経路はインプットセクター・ラウドネス・モード・バランスなどの回路がパスされ、極めてシンプルな回路構成となる為、よりハイクオリティな、CD サウンドがお楽しみいただけます。

このボタンをもう一度押し、解除にしない限り、インプットセクターで他のソースを選択しても入力ソースは切りませんので、ご注意ください。

⑥ ボリュームつまみ (VOLUME)

音量を調整するつまみで、右に回すほど音量が大きくなり、左に回すと小さくなります。

⑦ ヘッドホンジャック (PHONES)

(ヘッドホンを接続するジャックです。ヘッドホンで聴くときは、スピーカースイッチを A・B ボタンとも OFF (■) にしてください。)

⑧ トーンコントロールつまみ

・バスつまみ (BASS)

低音域を調整するつまみで、右 (+) に回すほど低音域が強調され、左 (-) に回すほど減衰されます。“DEFEAT”の位置で特性はフラットになります。

たとえば、バスドラムの音に迫力を出したいときに便利です。

・トレブルつまみ (TREBLE)

高音域の調整するつまみで、右 (+) に回すほど高音域が強調され、左 (-) に回すほど減衰されます。“DEFEAT”の位置で特性はフラットになります。

たとえば、ハイハットシンバルのような歯切れの良い音を出すときに便利です。

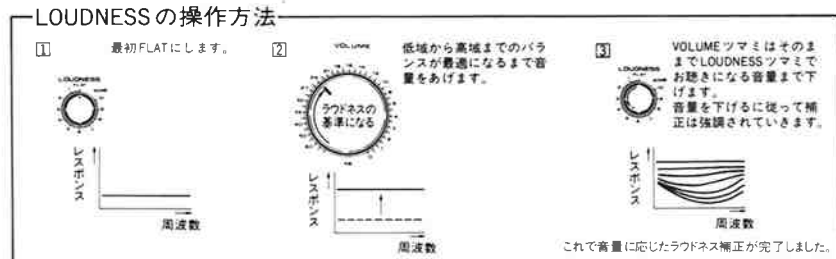
⑨ バランスコントロールつまみ (BALANCE)

スピーカーの左右の音量バランスを調整します。つまみを右 (左) に回すほど、左 (右) の音が小さくなり、最後まで回すと右側 (左側) のスピーカーだけになります。

バランス調整は、モードスイッチ (MODE) を “MONO” (■) にし、左右のスピーカーの音が中央から聞こえるようにします。調整後はモードを “STEREO” (■) に戻してください。

⑩ ラウドネスコントロールつまみ (LOUDNESS)

人間の聴感、音量が小さくなればなる程、低音と高音が聴えにくくなるという特性があります。これを補正するのが、ラウドネスですが、本機では聴いている音量レベルに応じ、補正に必要な量を継続的に得られるので、どの音量レベルでも低域から高域まで、不自然なく再生することができます。



● サブソニックフィルタースイッチ (SUBSONIC FILTER)

スイッチ ON (■) で、通常は音楽再生に必要なない 15 Hz 以下の超低域をカットします。レコード盤のそりなどで発生するスピーカーのコーン紙のフラつきによる歪の防止ができます。

※レコード演奏のときは、スピーカー保護のため、このスイッチを“ON”にして使用することをおすすめします。

● モードスイッチ (MODE)

プログラムソースの再生モードを、切替えます。

“STEREO” (■) では通常のステレオで再生され、“MONO” (■) ではモノラルで再生されます。通常は“STEREO” (■) にしておきます。

● フォノセクター (PHONO)

お使いのカートリッジのタイプにより切り換えてください。

MM型カートリッジ……MM (■)

MC型カートリッジ……MC (■)

の位置でご使用ください。

(なお高出力 MC 型カートリッジは、MM (■) ポジションで、ご使用が可能です。)



※カートリッジの出力電圧は機種によって異なりますので、カートリッジの取扱説明書をご参照ください。

● レックアウトセクター (REC OUT)

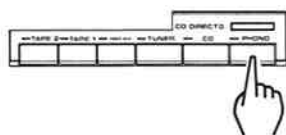
接続されているテープデッキに録音したいソースを選択するスイッチです。インプットセクターの位置に関係なく録音したいソースを選択することができます。

(詳しくは 11 ページの「多機能な REC OUT セクターについて」をご覧ください。)

操作のしかた／再生

1. 電源を入れる前に、アンプのボリュームは最小の位置 “-∞” になっているか確認してください。
2. 各機器の電源を入れてください。
3. スピーカースイッチで、希望するスピーカーシステム（AまたはB、あるいは両方）をON（）にして選択してください。
ヘッドホーンで聴く場合は、スイッチをA、BともOFF（）にしてください。

●レコード再生の場合



インプットセレクターの
“PHONO” のボタンを押す。

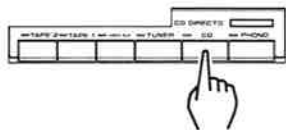


使用するカートリッジの
タイプに合わせてMM/
MCの切換をする。



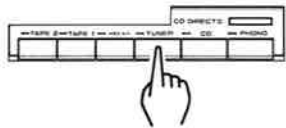
レコード盤にソリがある場合は、15
Hz以下の超低域雑音を除去するた
めにサブソニックフィルターをON
にする。

●CD再生の場合



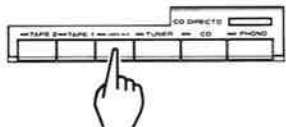
インプットセレクターの
“CD” のボタンを押す。

●チューナー再生の場合



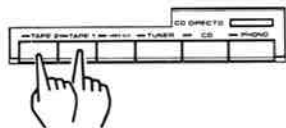
インプットセレクターの
“TUNER” のボタンを押す。

●ビデオ機器などの音を再生する場合



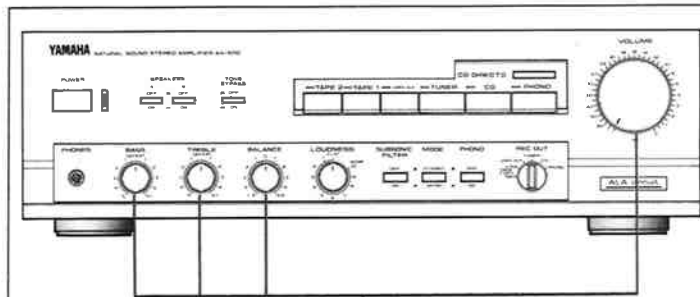
インプットセレクターの
“VIDEO/AUX” のボタンを押す。

●テープデッキ再生の場合



インプットセレクターの、
“TAPE 1・2” のボタンで再生
したいデッキを選んで押す。

プログラムソースの再生を始めます。
〔各機器の操作方法は、それぞれの取扱説明書をご参照
してください。〕



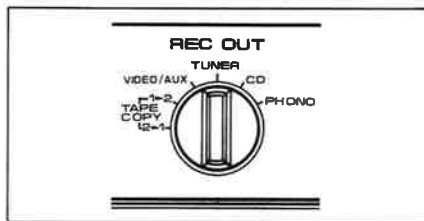
アンプのボリューム・バランスコントロール・トーンコン
トロール等で音量や音質を調整してください。

操作のしかた／録音

1. アンプ、テープデッキ、および録音したいソースの機器の電源を入れてください。



2. REC OUT セレクターで録音したいプログラムソースを選びます。



3. 録音したいプログラムソースを、スタートさせます。



4. スピーカーまたはヘッドホーンで、モニターするためインプットセレクターで録音したいプログラムソースを選びます。



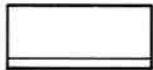
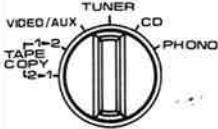

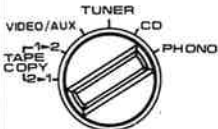

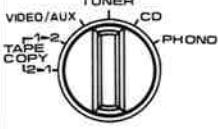

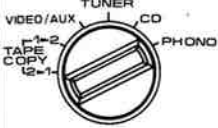
5. テープデッキをスタートさせ、録音を始めます。
(テープデッキの操作は、テープデッキの取扱説明書をご参照ください。)



6. 3ヘッド搭載のテープデッキをご使用の方は、インプットセレクターで、“TAPE 1、2”の録音中のボタンを押してください。テープデッキの“TAPE/SOURCE”の切換スイッチ操作で、録音直後の音とプログラムソースの音の比較モニターができます。

■多機能なREC OUTセレクトターについて (ダブルアクション)

インプットセレクトターで選んだプログラムソースを聴きながら、別のプログラムソースを REC OUT セレクトターで選んで録音することができます。主な例は、下記のようになります。

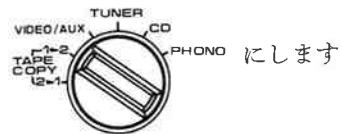
	インプットセレクトター	REC OUT
FM/AMを聴きながら、同時に録音する。	⇐ TUNER 	
CDを聴きながら、レコードを録音する。	⇐ CD 	
レコードを聴きながら、FM/AMを録音する。	⇐ PHONO 	
TAPE 1を聴きながら、TAPE 2でレコードを録音する。	⇐ TAPE 1 	

この他にもインプットセレクトターと REC OUT セレクトターの組み合わせにより、いろいろなプログラムソースを二重に楽しむことができます。

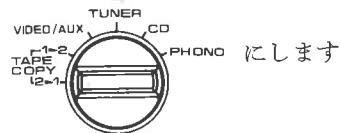
テープのダビングについて

REC OUT セレクトターの切換えで、テープからテープへのダビングが相互にできます。


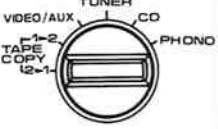
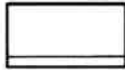

1. **テープデッキ1** から **テープデッキ2** にダビングする場合
REC OUT セレクトターを



2. **テープデッキ2** から **テープデッキ1** にダビングする場合
REC OUT セレクトターを



インプットセレクトターで選んだプログラムソースを聴きながら、ダビングができます。主な例は、下記のようになります。

	インプットセレクトター	REC OUT
FM/AMを聴きながら、TAPE 2からTAPE 1へダビングする。	⇐ TUNER 	
TAPE 1を聴きながら、TAPE 1からTAPE 2へダビングする。	⇐ TAPE 1 	

故障かな、と思ったら

本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められました場合は、本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りの YAMAHA 電気音響製品サービス拠点へ、お問い合わせ、サービスのご依頼ください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
電源スイッチをONにしても電源が入らない。	電源コードのプラグが電源コンセントにしっかり差し込まれていない。	電源プラグを電源コンセントにしっかり差し込みなおしてください。
インプットセレクターを切り換えても再生音が全く出ない。	SPEAKERSスイッチが正しくセットされていない。	正しくセットしてください。
	VOLUME ツマミが絞られている。	VOLUME ツマミを右(時計方向)に回してください。
	入力端子のピンプラグが確実に差し込まれていない。	ピンプラグをしっかりと差し込みなおしてください。
	アンプとスピーカーの接続が不完全	接続を確認してください。
インプットセレクターを切り換えてもCD以外の音は出ない。	CD DIRECT スイッチがONになっている。	CD DIRECT スイッチを押し解除してください。
左右スピーカーあるいは左右いずれかのスピーカーから音が出ない。	アンプとスピーカーの接続が不完全。	接続を確認してください。
	BALANCE ツマミがLかRのどちらかにずれている。	BALANCE ツマミを正しく調整してください。
低音のない不自然な再生音で、音像が安定しない。	アンプとスピーカーの位相(+)、(-)が合っていない。	アンプとスピーカーの位相(+)、(-)を合わせて接続しなおしてください。
レコード演奏のとき“ブーン”というハム音が入る。	ピンプラグの接続不良。	ピンプラグをしっかりと差し込みなおしてください。
	プレーヤーのアース線がはずれている。	アース線をリアパネルGND端子に接続してください。
	MC カートリッジの近くに電源コードがある。	電源コードは、カートリッジやPHONO出力コードの近くには配線しないようにしてください。
レコード再生時、VOLUME をあげると“ワーン”という音が出る。	レコードプレーヤーとスピーカーシステムの設置場所が近すぎたり、不安定だったりして“ハウリング”をおこしている。	レコードプレーヤーとスピーカーシステムの各々の設置場所を変えてください。(特に部屋のコーナーは避けてください。)
MC カートリッジの音が小さい。	PHONO セレクターがMMの状態になっている。	PHONO セレクターをMCにセットしてください。

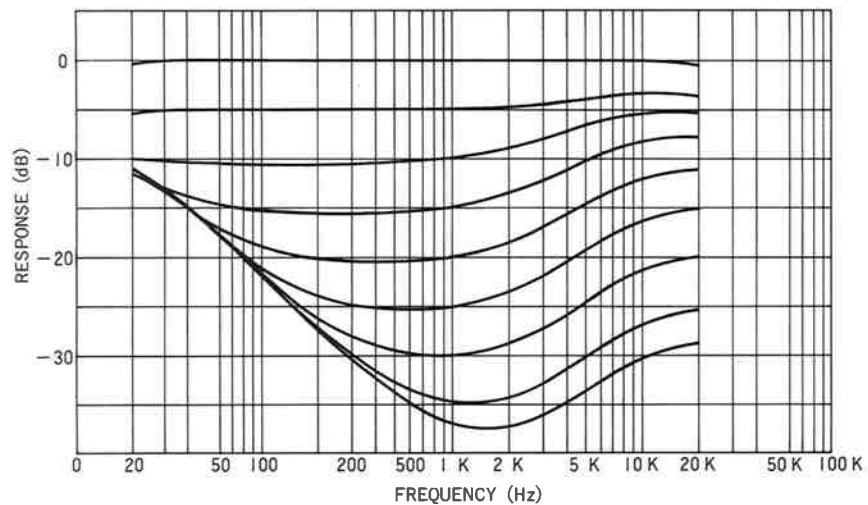
参考仕様

定格出力 (両 CH 駆動)	
8 Ω 0.01%	85 W+85 W
6 Ω 0.015%	100 W+100 W
ダイナミックパワー (片 CH 当り)	
1 kHz, 4 Ω/6 Ω/8 Ω	200 W/170 W/140 W
パワーバンド幅	
0.03%, 42.5 W/8 Ω	10 Hz~50 kHz
ダビングファクター	
1 kHz, 8 Ω	50 以上
入力感度/入力インピーダンス	
PHONO MC	160 μV/220 Ω
PHONO MM	2.5 mV/47 kΩ
CD/TUNER/VIDEO AUX/TAPE	150 mV/47 kΩ
最大許容入力	
PHONO MC (1 kHz, 0.01% THD)	10 mV
PHONO MM (1 kHz, 0.01% THD)	150 mV
出力電圧/出力インピーダンス	
REC OUT	150 mV/470 Ω
ヘッドホーンジャック出力	
0.01%	0.75 V/8 Ω
周波数特性 (20 Hz~20 kHz)	
CD/TUNER/VIDEO AUX/TAPE	±0.5 dB
RIAA 偏差	
PHONO MC (20 Hz~20 kHz)	±0.3 dB
PHONO MM (20 Hz~20 kHz)	±0.2 dB
全高調波歪率 (20 Hz~20 kHz)	
PHONO MC → REC OUT (3 V)	0.007%
PHONO MM → REC OUT (3 V)	0.003%
CD/TUNER/VIDEO AUX/TAPE → SP OUT (1 W/8 Ω)	0.005%
混変調歪率	
CD/TUNER/VIDEO AUX/TAPE (85 W/8 Ω)	0.01%
CD/TUNER/VIDEO AUX/TAPE (1 W/8 Ω)	0.005%

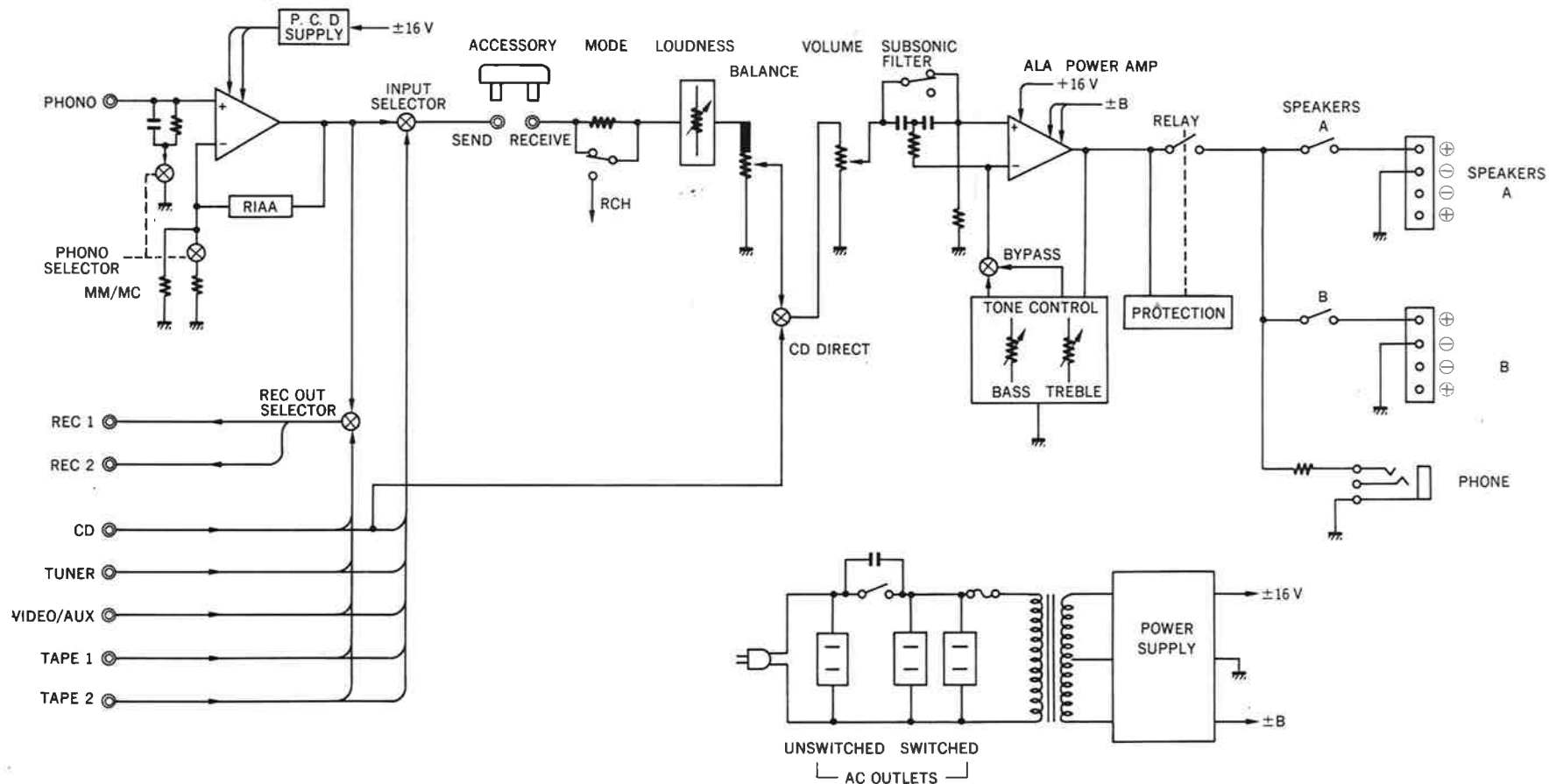
SN 比 (IHF, A ネットワーク, 入力ショート時)	
PHONO MC (250 μV)	67 dB
PHONO MM (2.5 mV)	84 dB
CD/TUNER/VIDEO AUX/TAPE	100 dB
SN 比 (新 IHF 規格の時)	
PHONO MC	72 dB
PHONO MM	76 dB
CD/TUNER/VIDEO AUX/TAPE	80 dB
残留ノイズ	140 μV
チャンネルセパレーション (VOL-30 dB) 1 kHz	50 dB
トーンコントロール	
BASS	±10 dB (20 Hz)
ターンオーバー周波数	350 Hz
TREBLE	±10 dB (20 kHz)
ターオーバー周波数	3.5 kHz
フィルター特性	
SUBSONIC FILTER	15 Hz, -12 dB/out
コンティニューアスラウドネスコントロール	
最大補正量 (聴感補正カーブによる)	-40 dB (1 kHz)
定格電源電圧、周波数	AC 100 V 50/60 Hz
定格消費電力	170 W
AC アウトレット	
SWITCHED (連動) × 2	Total 150 W max
UNSWITCHED (非連動) × 1	200 W max
外形寸法 (W×H×D)	435×139×332 mm
重量	7.8 kg

※参考仕様および外観は改良のため予告なく変更されることがございます。

● コンティニアスラウドネス特性



ブロックダイアグラム



ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハ ホットライン サービス ネットワークは、本機を末長く、安心してご愛用頂けるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

●保証期間

お買い上げ日より1年間です。

●保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理

修理によって製品の機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料にて修理いたします。

●補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年です。この期間は通商産業省の指導によるものです。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

(右欄サービス拠点の所在地と電話番号をご参照ください。)

●製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品名、製造番号などもあわせてお知らせください。

※品名、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

■YAMAHA電気音響製品サービス拠点

(電気音響製品の修理受付および修理品お預かり窓口)

北海道	〒065 札幌市東区本町1条9-3 TEL(011)781-3621
仙台	〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL(0222)36-0249
東京	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL(044)434-3100
新潟	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F TEL(0252)43-4321
浜松	〒435 浜松市上西町911番地 日本楽器宮竹工場内北側 TEL(0534)65-6711
名古屋	〒454 名古屋市千種区玉川町2-1-2 日本楽器名古屋流通センター3F TEL(052)652-2230
大阪	〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内 TEL(06)877-5262
四国	〒760 高松市丸亀町8-7 日本楽器高松店內 TEL(0878)22-3045
広島	〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39 TEL(082)874-3787
九州	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL(092)472-2134

■お客様相談窓口

北海道	〒064 札幌市中央区南10条西1-4 ヤマハセンター内 ステレオ北海道営業所 TEL(011)512-6115
仙台	〒980 仙台市大町2-2-10 住友生命仙台青葉台通ビル4F ステレオ仙台営業所 TEL(0222)23-1376
東京	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル4F ステレオ首都圏営業所 TEL(03)255-5691 ステレオ神田営業所 TEL(03)255-6767 ステレオ北関東営業所 TEL(03)255-1825 ステレオ東京営業所 TEL(03)255-2302
名古屋	〒464 名古屋市千種区東山通5-65 ヤマハ東山センター内 ステレオ名古屋営業所 TEL(052)782-7551
大阪	〒556 大阪市浪速区敷津東1-9-16 ヤマハなんばセンター内 ステレオ関西営業所 TEL(06)647-6411 ステレオ大阪営業所 TEL(06)647-6411
広島	〒730 広島市中区紙屋町1-1-20 いよぎん広島ビル内 ステレオ中四国営業所 TEL(082)244-3745
九州	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 ステレオ九州営業所 TEL(092)472-2131
本社	〒430 浜松市中沢町10-1 ステレオ事業部 国内営業部 TEL(0534)60-3421

日本楽器製造株式会社

〒430 浜松市中沢町10-1

ホームエレクトロニクス事業本部

ステレオ事業部国内営業部 TEL.(0534)60-3421
管理部サービス技術課 TEL.(0534)60-3405

住所および電話番号は変更になる場合があります。

